

# コミュニティー創成を目指す小施設的设计



ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

櫻井 義夫 教授 Yoshio Sakurai

## 研究概要

地域に根ざした個性の表現を核とするコミュニティーネットワーク装置の検討

## 研究シーズの内容

全国的な人口減に伴って、失われつつある地方の活力を維持するための連携事業によって、大規模施設の維持管理をあきらめながら、同時にすべてのよりどころを失う実態が全国的に進行している状況です。分断を回避し、小さな規模でありながらも、人のつながりを維持するための物理的な施設施策によって、小さな拠点のつながりを持たせながら、全体の回復を期待するネットワークが必要とされています。地域性の特徴を端的に表現しながら、住民参加によって参加者の個性がそのまま活かされ、従って自分自身の施設としての愛着を持ちうる、適正規模の公共性をどのように制作できるかを様々な地域で議論してきました。

2016年度は、域学連携の一例として、青森県西津軽郡鯉ヶ沢町において、「バス庭(ばすてい)」プロジェクトを完成させました。バス停は町のインフラにおいて、人の流れの骨格を作るネットワークであり、同時に利用者は周辺の限られた住民であるという、場所性を問われる施設ですが、単にサイン計画のみの存在から、むしろ住民が自分の庭として、互いの語らいの場としてのバス庭の骨格を設計し、住民の個性で使いこなしてもらうことを目的として実現しました。自分たちの庭なので、植木鉢を自由に持ち寄ったり、好きな情報を持ち寄ったり、利用者の個性を直接的に表明してもらっても良いし、掲示板を使って情報交換してもらっても良い、なによりも天気の良い日のたまり場として使ってもらうことを期待して制作しました。

小規模のネットワーク形成はこれだけの可能性にとどまらず、さらなる地域性を目指して研究を進めています。

## 研究シーズの応用例・産業界へのアピールポイント

地域の活性化 地域における個性の確認と再生 連携事業による祝祭空間の創出

## 特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

